



製品紹介 - MTSハンディートランス -

仰臥位でのベッド上の幅寄せ (膝を立てられない場合)

※今回御紹介する全ての介助法について

対象者にも介助者にも負担の無い快適な介助をするためには、必ず一度に、大きく横移動させないで、小刻みに同じ介助法を繰り返すことが大切です。



介助者は、安全な介助姿勢をとる為に、ベッドの高さを調整する。対象者の顔を、左に向かせ、両上肢は前に回します。介助者は、十分腰を落とし、前腕をマットレスに沿わせるようにして、対象者の大転子部に両手の手掌を当て少し斜め上方にソフトに押し上げて、臀部とベッドの間に隙間を作ります。



介助者は左手で対象者を支え、右手で図のようにハンディートランスを、少し足側から斜めに対象者の右骨盤部分に、マットレスを押し下げないように滑り込ませます。



ハンディートランスを敷き込み、対象者のベッドの端側の下肢を、(この場合は右下肢)少し進行方向に移動します。



対象者の顔を、右向けます。介助者は、左手でハンディートランスの握り手を持ち、右手の手掌を、対象者の大転子部に当てます。重心を左足に移しながら腰を落とし、対象者の骨盤を回転させるように傾けます。ハンディートランスの敷き込まれている対象者の右側の臀部に体重が移動します。



介助者は、ハンディートランス上で、対象者の右側の臀部に体重を、確実に載せた状態で、左足に重心をおいたままで、ゆっくりと立ち上がります。ハンディートランスの滑りによって、対象者の傾いていた骨盤が元に戻りながら臀部は横に移動します。



介助者は左手で対象者を、わずかに傾けてハンディートランスを取り除きます。



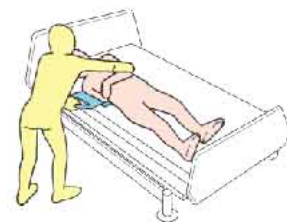
対象者の顔を左向け、両上肢を前に回すと、右の肩が自然に浮きます。図のように介助者は、前腕部をマットレスに沿わせて両手の手掌全体で、肩甲骨を軽く押し上げるようにして、ベッドとの間に隙間を作ります。



介助者は、左手で対象者の肩甲骨を支え、右手でハンディートランスをマットレスを押し下げるようにして、対象者の右側の肩甲骨部に挿入します。



介助者は、左手でハンディートランスの握り手を持ちます。対象者の顔を右向けると、対象者の左肩が浮きますので、介助者は右手を対象者の左肩先から肩甲骨をすくうように手掌全体でサポートします。介助者は、ゆっくりと重心を左足に移しながら腰を落とし、対象者を緩やかに右側に傾けハンディートランス上に、体重を移動します。



介助者は、ハンディートランス上で、対象者の右側の肩甲骨部に体重を確実に載せた状態で、左足に重心をおいたままで、ゆっくりと立ち上がります。ハンディートランスの滑りによって、対象者の傾いていた肩甲骨部が元に戻りながら、横に移動します。



介助者は、対象者を左向かせて、わずかに左手で対象者の肩甲骨を浮かせて、ハンディートランスを抜き取ります。

MTSハンディートランスを挿入する時の手の入れ方

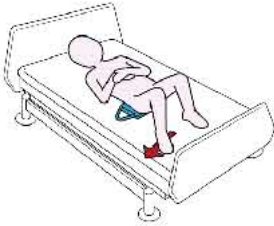


仰臥位でのベッド上の幅寄せ

(膝を立てられる場合)



介助者は、安全な介助姿勢をとる為に、ベッドの高さを調整する。
対象者の右膝を立てます。(両膝を立てても良い。)
対象者に左側を向くよう促し、両上肢を前に回します。
対象者の膝を立てると、右側の骨盤部分の接触面積が、減少しますので、介助者は、左手で軽く大転子部を押し、右手で図のようにハンディートランスを臀部に滑り込ませるように挿入します。



ハンディートランスを敷き込み、股関節節で両膝を立てます。
(自然な動きをするために、脚を揃えない事が大切です。)
次に、移動側の対象者の右足は、少し進行方向に位置します。



対象者に右を向くように促します。
介助者は、左手でハンディートランスの握り手を持ちます。
右手の手掌を、対象者の大転子部に当てて、重心を左足に移しながら腰を落とし、軽く骨盤を回転するように傾けます。ハンディートランスの敷きこまれていた対象者の右側の臀部に、体重を移動します。



介助者は、左足に重心をおいたままで、ゆっくりと立ち上がります。
ハンディートランスの滑りによって、対象者の傾いていた骨盤が元に戻りながら臀部は横に移動します。

肩甲骨部の横への移動助技術は、「仰臥位でのベッド上の幅寄せ(膝を立てられない場合)」と同様に行います。

仰臥位での幅寄せ介助をする場合、膝を立てて介助するほうが対象者の自然な動きが活かしやすく、介助者負担が大幅に軽減されますので、可能な限り膝を立てた介助技術を採用されることをお勧めします。

長座位でのベッド上の幅寄せ



対象者は、ベッド上で長座位をとらせませす。
介助者は、膝の高さにベッドの高さを調整します。ベッド上に片膝をつきます。
(介助者が十分な重心移動が出来、安全な作業姿勢をとるために、必ずベッドの高さ調整をしてください。)



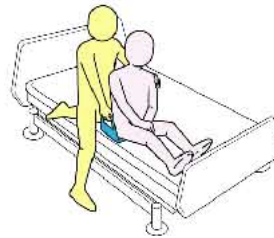
自然な身体の動きを活用して、対象者を少し前傾させてから、斜め前方に傾けます。すると、自然に右側の坐骨部が浮き、ベッドとの間に隙間が出来ますので、図のように、ハンディートランスを、滑り込ませるように挿入し右側の坐骨部に敷き込みます。
(対象者を前傾させずに、真横に傾けると坐骨部とベッドとの間に隙間が出来ません。その為、ハンディートランスを無理に押し込む不適切な介助になります。注意してください。)



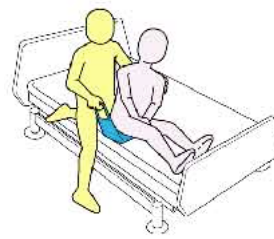
ベッドの端側の下肢を(この場合は右下肢)、少し進行方向に位置します。



介助者は、右手でハンディートランスの握り手を持ちます。
介助者は重心をおとし、左手で対象者をサポートして、対象者を右側に傾けると、対象者の体重がハンディートランスの上に乗ります。

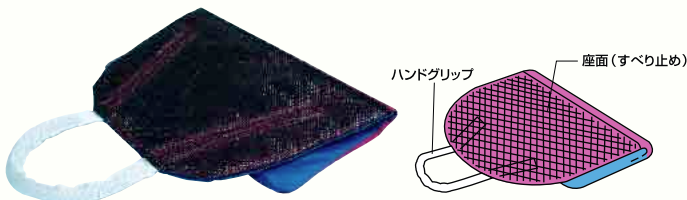


対象者を少し傾けたままで、ハンディートランスの握り手を持って、介助者は、ゆっくりと重心を右足に移し立ち上がるように介助します。(ハンディートランスの握り手を持って、引っ張らないで下さい。)



対象者は、ハンディートランスの滑りによって、重心を元に戻しながらベッドの端に移動します。移動終了時、わずかに対象者を左に傾けると、容易にハンディートランスを、取り除く事が出来ます。

MTSハンディートランス



品番	5891
サイズ	
重量	
材質	
製造国	

¥10,290(税込)
〈JAN 4524491001163〉